

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402583		
法人名	医療法人 大郷内科クリニック		
事業所名	グループホーム あんずの郷		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目3番25号 Tel.093-562-8700		
自己評価作成日	平成 23年03月18日	評価結果確定日	平成23年04月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年04月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎月の入居者様の状態を御家族に触れ合い通信や面会時に報告し、御家族にもしっかりと現在の状態を把握して頂ける様に努めている。あんずの郷の経営母体が医療法人である為、大郷内科クリニックとの連携を行い、医療面での対応が充実出来るように努めている。地域との関わりを多く持てるように、地域の行事等には積極的参加するように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「住み慣れた地域でいつまでも穏やかに暮らしたい」という住民の要望を取り入れ、医療法人経営の理事長が開設した「グループホームあんずの郷」である。管理者は、理念を職員に理解してもらい、一人ひとりが自覚して介護サービスに取り組む姿勢は、家族から高い評価を受けている。医療法人が母体で、利用者の重度化に向けた24時間の看護、介護の連携と、美味しい食事、メリハリの利いたレクリエーションや外出の支援等、自立支援に向けた健康管理体制は、万全の物がある。また、地域の夏祭り、運動会、文化祭、敬老会や、ホームの納涼祭、保育園児との交流等、活発な交流が始まっている。今後は医療、介護を一体化した地域密着型サービスを定着させ、社会貢献を目指しているグループホーム あんずの郷であ</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした安心と安らぎのあるグループホームを目指します」という事業所独自の理念を作っている。又、職員全員に意識を浸透してもらい、日々の業務の中で思いやりとやさしさの心で、明るく笑顔で接するように対応している。	代表者の思いを、ホーム独自の理念として掲げ、職員は毎朝唱和する事で理念を共有し、地域密着型グループホームとして地域の信頼を得ながら、職員一人ひとりが実践に向けた取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域の祭りや運動会、文化祭、敬老会に入居者様と共に参加したり、地域の方に事業所を訪れて頂けるように納涼祭を開催したり、職員は地域のお祭りで毎年神輿を担ぐ等して、地域との交流を行っている。	ホームで行う納涼祭へ地域の方の参加を呼びかけたり、校区の防災訓練への参加、保育園児、小学生の来訪、高校生、専門学校生の実習の受け入れなど、地域に開かれたホームを目指している。また、職員は地域の一員となり、防犯パトロールを行ったり、神輿を担いだり、年々信頼関係も深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での文化祭で、介護相談会を実施したりして、認知症に関する相談等を行い、理解や支援を地域の方々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、校区自治会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター職員の方々に参加して頂き、近郊に立地する同法人運営のG・H、ねむの郷金鶏と合同の運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。事業所のサービス内容を報告したり、運営方針を報告している。	法人内のグループホームと合同で、運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。食事会をしたり、マンネリ化しないよう内容について工夫し、活発な交流の場となっている。今後は、会議を発展させホーム運営を推進する起爆剤となるよう、更なる内容の充実に向けての検討が始まっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会、事業所連絡会、G・H協議会等に市の担当者に着て頂いたり、お会いした時に報告したり、相談して連携をとっている。	行政主催の会議や研修に参加したり、グループホーム協議会で行政職員と情報交換をし、助言をもらうなど連携を深め、協力関係を築くために努力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての知識については、研修等を通じて正しく理解してもらっている。現在は身体拘束を行っている御入居者はいない。身体拘束に関しての研修を、内外部の研修で実施し、身体拘束をしないケアを行っている。	マニュアルを整備し、職員同士で検討し、正しく理解すると同時に、職員一人ひとりがテーマを設け、身体拘束をしないケアの実践に向けた取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部研修にて学ぶ機会を持ち、今後も定期的に研修会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外内部研修にて学ぶ機会を持ち、必要とされる方には入居契約の時に、全御入居者・御家族に制度についての説明を行っている。	権利擁護に関する制度について研修を受講し、内部研修において職員一人ひとりが理解している。また、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が必要な時にいつでも説明し、活用のための橋渡しができる体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な機会を設けている。最初に契約書を渡し、持ち帰って頂き、後日疑問点を伺っている。その後に、こちらから説明を行い、さらに疑問が無いかをお伺いし、なければ契約を結ぶようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して御家族や御入居者の意見や不満等を聞いて職員間で検討している。又、運営推進会議においても御家族からの意見を頂き、その意見をもとにサービス向上に活かしている。	家族の来訪時に、ホーム長を始め、全職員は積極的にコミュニケーションをとり、家族が意見や要望を言い易い雰囲気作りを常に心がけている。また、家族交流会を開催し、家族と親しく交流しながら信頼関係を構築し、何でも言える関係の中で要望を聞き取り、ホーム運営に出来るだけ反映するよう努力している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に運営に関する職員の意見や介護に対する思い等をアンケートを通じて聞いている。それをミーティング時に職員と共に話し合いを行っている。又、年2回の面接時に意見を聞いている。	毎月会議を開催し、管理者や職員間で課題となっている様々な事例を検討し、意見の反映が出来るようにしている。また、管理者は職員に対して、日常の中での声かけを心がけると共に、年2回面接を行うなど、職員の意見や思いを聞き取る機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートと事業所独自のものを採用して勤務状況や職員個々の努力や実績を賞与等に反映している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用の際には、偏見を持たずに面接を行って決めている。介護の経験の無い方や、外国人の採用も行っている。又、職員の資格習得の為に、内部研修を行ったり勉強会の開催や社会参加への協力も行っている。又、採用前にボランティアとして数日勤務して頂き、お互いの意思を確認しあっている。	職員の採用は、年齢、性別、国籍を問わず、人間性、働く意欲を重要視し採用している。職員の休憩時間、休憩場所の確保など、今後の課題として検討している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重するように、入社時には職員への教育を行っている。又、年2回の職員面接時にチャレンジシート(自己評価表)を使用して、人権を尊重したケアが出来ているか再度見直しも行っている。	利用者の人権を尊重するための人権研修を実施し、職員全員で共有し、利用者が穏やかに暮らせる環境を目指している。また、新人研修で人権学習に取り組み、啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は内外での研修を行っている。年間計画を立て研修を受ける機会を確保したり、職員が順番に講師役になって、研修を実施する等の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や事業者協議会に参加し交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者の方は、ホーム長・プラン担当職員が中心に話をする機会を多く作り信頼関係を作るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	『このサービスしか出来ない』と決め付けるのではなく相談に応じ柔軟に対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	『このサービスしか出来ない』と決め付けるのではなく相談に応じ柔軟に対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御入居者を支援される側だけの立場におかず、一緒に生活していく上で、御入居者の方から学んだり、励まされたりして支えあう関係を作っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出やレクリエーション等への参加を共にして頂く事によって、信頼関係を作っていくように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御入居者の方の友人や馴染みのある場所は大切に、関係が途切れないように支援している。	ホームには、利用者の昔ながらの友人、知人が頻繁に来訪されている。また、日常の会話の中で、利用者の行きたい所、会いたい人等について聴き取り、家族と相談しながら、お墓参り、魚釣り、美容院、結婚式への出席など、積極的に関係継続のための支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者同士のコミュニケーションがとれるように、職員が間に入る等の配慮を行い、支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても御家族との関係は、断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接時に御入居者・御家族一人一人の思いや希望、意向を確認し、ホームでどのように暮らしていく事を望んでいるかを伺っている。御入居者が自分で決めたり、御入居者の方に選んで頂けるように環境を作っている。	利用者の重度化に伴い、徐々に思いや意向の表出が困難になってきているため、家族から聴き取った事などをアセスメントシートに記入し、また、本人の過去の履歴を参考に検討し、利用者が今何をしたいのかなど、利用者の思いを把握し、ここで暮らして良かったと思っただけのような支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	絵を描く事が好きな御入居者の方には、絵を描くレクリエーションを多く行ったり、歌が得意な御入居者の方には、音楽のレクリエーションを行ったり等、御入居者の方々がこれまでの経験を活かしてもらえるように支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御入居者の方々、一人ひとりの一日の流れを把握して支援するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・ケアプラン係り、御入居者、御家族で相談して具体的な課題、目標を記載した介護計画を作成している。又、かかりつけ医や他専門職に意見、希望を聞き計画に反映させている。	介護計画は6ヶ月毎に見直し、利用者、家族、関係者で話し合い、納得のいく計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、その都度見直しを図り、常に現状に即した計画になっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録は特記事項に記入を毎日行い、情報の共有をしながら、日々の介護や見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性を活かし、医療連携体制や病院・自宅・美容室への外出の支援等、その時々々の要望に応じた支援を行っている。又、御入居者一人ひとりの「あなたの夢叶えます」という個別レクを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会やクリスマス会等の際に、保育園児の慰問ボランティアに来て頂いたりして、交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、御入居者と御家族の希望を聞き、かかりつけ医を選択して頂いている。系列医療機関でも診察は可能である事を入居時に説明している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医、提携医を選択してもらっている。利用者の急変時は、24時間体制の救急病院と提携し、安心して受診できる体制がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列医療機関の看護師も含め、医療機関との連携は整っている。又、24時間対応して頂けるような体制を作っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	系列医療機関の他、有床の医療機関を協力医療機関として確保しており、御入居者が入院された際には、御家族・医療機関と情報交換を密に行い、早期退院に向けた支援をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、終末期のあり方について説明を行っている。状況に応じて終末期における対応について、御家族と繰り返し話し合いを行い、御家族としての考えを確認している。	ターミナルケアの指針を作成し、利用者、家族、関係者と方針を話し合い、共有し、重度化に向けた取り組みを行っている。現在、職員が一丸となって、ターミナルケアを実施中である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、全職員を対象に、消防の方に来て頂き研修を実施した。また、定期的に内部研修も行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の集まりや、運営推進会議を通じて協力を呼びかけている。また、校区の防災訓練にも参加している。さらに職員間での研修を行い、災害時に迅速な対応が行えるように指導している。	校区の防災訓練に参加したり、年2回、避難訓練を行い、避難経路、避難場所を特定し、いざという時に備えている。また、マニュアルを作成し、職員間で連携し、迅速に対応できる体制がある。	備蓄は、法人本部で一括管理しているが、非常災害時に備え、それぞれの事業所による非常食、飲料水、毛布などの準備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がプライバシーに配慮したケアや声かけが出来るよう、内部研修を行い、御入居者の自尊心や羞恥心に配慮した、さり気無いケアを行っている。又、記録等の個人情報の取り扱いには十分に注意している。	職員は、利用者の尊厳やプライドを尊重し、優しく対応し、思いやりのある心のこもった介護サービスを実施できるよう努力を重ねている。また、個人記録は、見えない場所で慎重に保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりする事を大切にし、本人のわかりやすいように説明を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御入居者の意思を尊重し、日課にとらわれない生活を提供している。予想外の希望があった際には、意向に沿えるよう柔軟に対応し、一人ひとりのペースに合わせた支援を大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選んで頂いたり、行事の企画の時にいきたい場所を御聞きしたり買い物にお連れして、好きなものを選んで頂いたりしている。理容・美容は希望のある方には望む店に行ける様に支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者の持っている力を発揮して頂き、食材の買出しから調理、味見、配膳・下膳、後片付け等、職員と共に楽しみながら行っている。献立についても週2回自由食を取り入れて、御入居者の方にその都度希望を聞き食べたい食事を作っている。	利用者は、職員と一緒に配膳、下膳、後片付けなどを行っている。食事は、利用者と職員が同じテーブルで同じ物を食べ、楽しい会話の中で和気藹々とした雰囲気である。週2回、自由食を取り入れ、利用者の希望を聴きながら献立を考え、食べたい物を美味しく食べることの出来る体制がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を確認記録し、栄養がきちんと取れているか確認している。また、排尿量も記録を行い、少ない場合は水分補給を強化等の対応を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御入居者全員に食後の口腔ケアの声掛けを行っており、御入居者の状態に合わせたケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握して定期的に声掛けを行ったり、誘導をして排泄の失敗等を出るだけ減らせるように努めている。	利用者一人ひとりの排泄のパターンを記録した排泄チェックシートで、職員は利用者の日々の状態を把握し、さりげないトイレ誘導や自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内部研修を通じて、疾病等についての知識を増やすよう努力している。また、便秘等見られた際は、水分補給強化や薬の調整等で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御入居者の希望に合わせて、入っている時間や入浴の順番、入浴剤の使用等個別の対応を行っている。入浴を楽しんで頂ける様、菖蒲湯や柚子湯にしたり、時には銭湯に行く等の取り組みも行っている。	入浴は利用者の希望に合わせて、好きな時間に入れる体制がある。菖蒲湯や柚子湯で入浴を楽しむ演出をするなど、出来るだけ入浴を拒否しないで済む環境を目指している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御入居者一人ひとりの生活習慣を把握して、状況に応じて居室に誘導して横になって頂いたり、ホールにソファを設置しているので、そこでゆっくりと休息してもらう等の支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について分かるように、個人ケースに薬の処方箋を挟んでいる。また、目的についても薬が変更になる度に伝達ノートに理由を説明し、全職員に伝えるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御入居者の得意なことや好きな事を把握し、出来る事・したい事を考慮しながら支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、御入居者の希望に合わせて外出を行うように支援し、時には車でドライブ等も行っている。身体的に外出が困難な方でも、少しの時間でも外の空気に当たってもらうなどの支援を行っている。	散歩、公園散策、ドライブ、買物など、天気の良い日は出来るだけ自然の風に触れることのできるよう、外出の支援をしている。また、外出が困難な利用者はベランダで外気浴をし、季節を五感で感じていただく等の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御入居者と一緒に買い物に行った際には、レジでお金を支払って頂いたり、御自分のお小遣いで買いたい物を買ってもらおう等の支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御入居者より要望があった際には電話をかけたたり、手紙を書かれた際には一緒に、ポストまで出しに行く等して対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音や不快な音がする際には、御入居者への声かけを行い、短時間で終わるよう配慮している。家庭的な物品や季節感を感じて頂けるような装飾品にて、温かい雰囲気になるように努めている。	3階建ての建物の2、3階部分をグループホームが使用し、家庭的な玄関を入ると、手作りの飾り物や行事の写真などが掲示してあり、温かい雰囲気作りの工夫が見られる。また、音や臭い、光など、利用者が快適に暮らせるよう、注意深い配慮がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置しており、他入居者の方と交流の場になっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品はもちろん、幼少期に使われていた大正琴をお持ち頂き飾る等、実施している。	利用者の馴染みの物を、家族と相談して持ち込んでもらい、自宅のように寛いで暮らしていただけるように、関係者が協力しながら支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにし、ホール内やトイレ内に手すりを設置したり、車椅子のまま洗面所を使用できるようにし、自立支援を促している。		